

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2772300972
法人名	桂商事株式会社
事業所名	グループホームさくら北畠
所在地	大阪府大阪市阿倍野区播磨町1丁目19番9号 (電話) 06-6623-7200

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年11月12日

【情報提供票より】(平成20年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	24人, 非常勤 0 人, 常勤換算 24 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての 2 階 ~ 4 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	7 名	要介護2	8 名		
要介護3	11 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	60 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 錦秀会 阪和病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄御堂筋線西田辺駅から徒歩10分の街の中にある当該ホームは、1階に医院がある4階建ての建物の2～4階部分(3ユニット)が入居スペースになっています。居室、共有スペースとも広く、明るく作られており、各ユニットごとに飾りつけ等の工夫を加え、それぞれ居心地の良い空間作りができています。職員全員がホームの理念に沿ったケアの実践に向けて日々取り組めるよう、管理者は個々の職員の意思を尊重しつつリーダーシップを発揮しています。職員間の連携もよく、入居者を中心に一人ひとりの思いに沿った活気のある生活ができることを支援しているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回自己評価を行ったり、外部評価を受けて、運営推進会議の開催や希望に合わせた外出に対応できる体制作りに取り組みました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで会議を持ち自己評価・改善課題について話し合い、ユニットリーダーが取りまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開催準備が整い、先月から地域包括センター、阪南地区ネットワーク委員会、家族、ホーム職員が参加する運営推進会議が開催されました。ホームの特性と方針について、入居者の状況等の報告を始め、実際のサービスに結びつくような質疑、要望・提案等について話し合われました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム全体の様子を写真入りのホーム便りを作成すると共に、入居者一人ひとりの体調や様子を手書きの手紙を作成し郵送し、細かな報告を行い家族からも喜ばれています。日々の面会時等家族ができるだけ言いたいことが言えるようコミュニケーションをとる際に気を配っています。また家族会を年に2回開催し、意見をもらったことに関して速やかに職員間で話し合い、対応できるように取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の回覧板等で地域の行事を知ったり、地域の複数の幼稚園との交流を持っています。また、地域に出かけるばかりではなく、ホームの夏祭りの行事には近隣の住人に来てもらう等ホームに招いて交流することにも努めています。近隣で行われるふれあい喫茶にも参加したいと考えています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自で「のんびりと笑顔あふれる第2の我が家」という理念を作りあげています。地域とのかかわりの中で暮らすことを支えることについて、理念の中に明文化されていません。	○	理念の中に、地域の中で暮らすことを支える支援を意識付ける言葉が盛り込まれれば、地域密着型のサービスとしての理念となるのではないのでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの入り口に大きく掲示してあります。また、日々の申し送りやケアについて話をする時には、理念に立ち戻り、利用者にとってどのような生活を望まれているのかについて意識し、実践できるよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の回覧板等で地域の行事を知ったり、地域の複数の幼稚園との交流を持っています。また、地域に出かけるばかりではなく、ホームの夏祭りの行事には近隣の住人に来てもらう等ホームに招いて交流することにも努めています。近隣で行われるふれあい喫茶にも参加したいと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットで会議を持ち自己評価・改善課題について話し合い、ユニットリーダーが取りまとめました。また、前回自己評価の課題や外部評価を受け、運営推進会議の定期的な開催や希望に合わせた外出に対応できる体制作りに取り組みました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催準備が整い、先月から地域包括センター、阪南地区ネットワーク委員会、家族、ホーム職員が参加する運営推進会議が開催されました。ホームの特性と方針について、入居者の状況等の報告を始め、実際のサービスに結びつくような質疑、要望・提案等について話し合われました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	阿倍野区役所へは、ホームの運営状況の変更や更新の際に直接役所に行き、担当者への報告を行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム全体の様子を写した写真入りのホーム便りを作成すると共に、入居者一人ひとりの体調や様子を手紙に書き細かな報告を行っています。また、金銭管理の出納帳の内容についても毎月報告し、ホーム便りや手紙と一緒に郵送しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置したり、日々の面会時等家族ができるだけ言いたいことが言えるようコミュニケーションをとる際に気を配っています。また、家族会を年に2回開催し、意見をもらったことに関して速やかに職員間で話し合い、対応できるように取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員とのコミュニケーションを多くとり、思いや悩みを話しやすい関係を作り離職を最小限になるよう努めています。新しい職員には、馴染みのある職員と一緒に業務を行いながら、できるだけ入居者と関わりを持ち、新しい関係をスムーズに作るように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修として年間計画を立て、毎月勉強会を行っています。また外部研修の案内を回覧し、希望を募り必要に応じて参加してもらっています。外部研修受講後は研修レポートを回覧したり、勉強会で伝達研修をして、他の職員に伝えるよう取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のホームとは合同で会議を行い、お互いにサービス活かすための情報交換や交流を図っています。行政の集団指導等の際に他の施設の職員と情報交換することはありますが、交流やサービスの質の向上への取り組みには至っていません。	○	以前交流のあった近隣のホーム等と合同での行事が行われたり、職員同士の交流や情報交換があれば、更にサービスの質の向上につながるのではないのでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居や日帰り利用をしてもらい、徐々に慣れていくことができるような取組みがあります。また、入居時には入居前の生活についての情報を得るとともに、家族と密に連絡をとりながら、できるだけ自由に過ごしてもらえるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬をし、尊厳を守る姿勢を持って接しています。入居者自身が思っていることを言いやすい雰囲気作りや、職員は教えてもらうことも大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでは生活歴や習慣を把握し、日々のケアの中で一人ひとりの表情や思いを聞くことで、本人の意向の把握に努めています。また、ケアカンファレンスで検討したり、3階ユニットではセンター方式の一部を利用して職員間での情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり情報を集約するとともに、介護計画作成の際には担当者会議を開催し、意見を出し合った上で介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標設定は、長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月と期間を設定しており、3ヶ月ごとに見直しを行っています。介護計画の実施は日々の記録に残され、実施状況を毎月の評価に活かされています。毎月評価することで、現状に即した介護計画になっているかを確認しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前からのかかりつけ医の定期受診の支援や希望に合わせた場所(神社や四天王寺、銭湯など)への外出支援を行っています。また、仏壇を持ち込まれている入居者の希望により、ホームで家族も集まり法要が行われたこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、個々のかかりつけ医を決めています。以前からのかかりつけ医に今も受診している入居者の方が多く、個々のかかりつけ医との連携をとり、24時間の連絡体制も確保されています。訪問看護も入居者の必要に合わせて個別の対応となっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調不良や酸素が必要になった時には、医師や家族、職員で話し合い、対応について検討しています。現在までにターミナルケアの経験はありませんが、可能な限りの対応は行っていきたくと考えています。	○	ホームとして対応できることできないことの整理を行い、重度化や看取りの指針として文章化し、家族や職員と認識を一致させ、実際の対応時に向けての準備していくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は申し送りの際に言葉遣いや対応について注意をし、適切な対応を心がけています。言葉遣いや声のかけ方など家族にも確認しながら、プライバシーを損ねないよう注意をはらっています。個人情報の含まれる記録類は鍵のかかる書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの入居者の1日の過ごし方を把握し、またその日の希望に耳を傾け、できる限り希望に添った1日を過ごすことができるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広く大きなアイランド型のキッチンがあり、調理のできる方を中心に職員と一緒に食事作り、後片付けをしています。また、誕生日には入居者と一緒にケーキ作りも行っています。食事時には、職員は各テーブルに分かれ、入居者と同じものを食べながら、会話を楽しみ、さりげなく介助を行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回曜日を決めています。本人の希望に合わせた時間帯に入浴できるように支援をしています。希望があれば、毎日の入浴も可能です。また、拒否のある入居者には、誘導のタイミングや声のかけ方などを工夫し、気持ちよく入ってもらえるよう工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や洗濯などの家事に役割を感じている方、花のみず遣り、金魚のえさやり、日曜礼拝・四天王寺の参拝への外出などの楽しみごとを持っている方など、個々に合わせて生活の中での役割や楽しみが持てるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できる限り個別に行きたい時に、散歩や買い物、喫茶店などの外出支援を行っています。ほとんどの人が毎日外出でき、ホームの中だけで過ごさないよう心がけて支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットには鍵をかけていませんが、防犯上も考慮してエレベーターにはロックが掛かっており、自由に外に出ることはできません。外出希望の方や帰宅願望の強い時には、できる限り一緒に外出できるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で年に1回避難訓練を行っています。夜間の災害時の想定をメインに消火器の使い方、避難経路の確認を行っています。運営推進会議に出席のあった地域ネットワーク協会の委員から協力が得られる予定です。	○	運営推進会議をきっかけに、近隣の住人に避難時の協力が得られるような働きかけを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は以前に保健師に指導を受けたことを活かし、バランスを考えたり食べやすい硬さの工夫をしてユニット毎に立てています。刻み食や粥、ミキサー食にも対応できます。食事は全員毎回チェックし、水分量は必要な人のみチェックし記録しています。また体重の変化もチェックし栄養の確保に注意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、明るくユニット毎に入居者に合わせた飾り付けを行い、それぞれが落ち着いて暮らせるよう配慮しています。廊下のあちこちに備え付けのベンチがあり、座って休憩をしたり一人で過ごしたいときに過ごすことのできるスペースになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、洗面やトイレもあり便利に過ごしやすく、床は畳になっています。個々の生活に合わせて布団を敷いたり、ベッドを持ち込んだりしているほか、テレビや仏壇、写真など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み居心地よく過ごせる空間作りを工夫しています。		